

### ガラケーもどきは今後も不滅です

ここで言う「ガラケーもどき」とは昔の正真正銘のガラケーのことではありません。

つまり、ハードウェアとしては使用する通信方式が「FOMA (=3G) / LTE」もしくは単なる「LTE」、たとえ仕様上は前者のように FOMA の通信方式が可能であっても通信会社が提供するサービスは LTE オンリーというものです。

それでも「ガラケー」という理由は、ユーザーインターフェースとしてテンキーがあり、昔のケータイと同じような感覚で使えるからです。

そしてハードウェア以上に重要なことですが、通信会社はスマホでは利用出来ないケータイ専用の料金コースを用意しています。これを利用することにより、料金面では昔の FOMA ガラケー以下でガラケーもどきを利用することが可能になっているのです。

それではもっと具体的に、ひとつの事例をご紹介します：

まず正真正銘のガラケーですが、これは 10 年前に購入したドコモの F-08B（富士通）、これはもう電池パックが中古でも入手困難になっています。料金コースは FOMA プランの「ファミ割 MAX50 / ひとりでも割 50」、要するに通話コース+パケット定額分+iモード利用分が2年縛りだと約 3,150 / 月となっています。ただし、通話コース分については毎月¥1,000 を限度にトータル¥16,000 まで繰り越せるようになっています。

この F-08B の標準サイズの SIM カード（=FOMA カード）をドコモショップで小さな nano カードへ変更すれば（費用は¥2,000）、別途ネットで購入した SIM カード無しの SH-01J を動かせるのではないかと試してみましたが、これは全くダメでした。

そこで仕方なく料金コースを Xi サービスへ変更したわけですが（事務手数料¥3,000）。その際選んだ料金コースは（ドコモおすすめの）「カケホーダイライトプラン（ケータイ）¥1,200 / 月」（5分までの通話は無料で何回かけてもよい）+「ケータイパック¥300 / 月」（データ通信分定額で¥4,200 / 月が上限）+「sp モードサービス¥300 / 月」（i モードサービスに相当）、しめて¥1,800 / 月（税別）としました。

注）料金コースの変更と同時に SIM カードのサイズ変更を行えば、サイズ費用はかかりません。

たぶんこれで今までと同じような携帯電話の使い方が出来ると思いますし、月々の料金はかなり安くなっています。

ただしスマホ的な使い方は全くせず、ピュアに電話+ショートメール+e-mailに限った利用を考えています。

さてさて、ここから先はいかにして新しいガラケーの電池パックを延命させるかという工夫の話になります。要するに充電回数をなるべく減らせばいいわけです。

F-08の電池パックと比較すると、SH-01Jの電池パック（SH-44）は（スマホ的な使い方も想定しているので）倍位の容量となっています。ですからガラケーとして普通の使い方をしてても特に問題は無いのですが、省エネ化を徹底すれば更に長持ちする（＝充電回数を減らせる）わけです。

この辺のやり方についてはネットにいろいろな記事が掲載されていますので、それらを参考にされたらよいと思います。

さらに予備電池パックを購入しておけば、非常時の備えにもなるし向こう15年位はこのSH-01Jを使い続けることが出来るはずです。

注）SH-01Jの場合、充電後の電池の残存容量（%）、消費項目（%）を表示可能です。

最後になりますが、私は「スマホ」を毛嫌いしています。

ネットに常時接続していないと使い物にならないなんてトンデモナイ、セキュリティ上のリスクが高過ぎです。パソコンで出来ることはセキュリティがしっかりしているパソコンにやらせておけばいいという考え方です。

ネットの世界はいわば人間が創り出した密林ジャングル、魑魅魍魎の世界です。

必要以上に係わり合いを持たない方が無難というものです。

それにスマホのルーツは昔のPHS、要するに「データ通信端末」です。これにOSを積んで情報端末にしたのがスマホだと理解しています。

しかし今や世の中はスマホ一色、通信会社が「ケータイ」に対してこれほど配慮しているとは全く思いもせませんでした。本当に意外でした。

以上